

日本での留学って私なんてできないと思っていた。高校の時からずっと日本語の勉強を続けていた私にとって日本での留学というのは夢のような話だった。行きたい気は山々だったけど、ただそんな機会が私にくるとは思わなかった。大学の教授から電話で私が広島大学に行くことになったというニュースを聞いた瞬間心臓が止まりそうだった。ところが、いいニュースといっしょに心配が先立った。一人暮らしは今まで一度もしたことがない私にこのニュースは喜びと心配を同時に私に負わしてくれた。何かを本当にあこがれると時間はもっとおそく経つのだ。やっと日本に出発する日。私を一人で見送る両親の気持ちはどうだっただろう。

関西空港に到着後、新幹線に乗って、どこかで乗り換えた覚えがある。不慣れた土地で何もわからない状態で誰かに話をかけるのは簡単なことじゃない。「広島まで行かなきゃ行けない。。電車で間違えたらどうする。。。」そんなに心配かかわらず無事に東広島駅に到着することができた。幸に私を担当する広島大学の教授の学生が私を迎えに来ることになっていた。

広島大学は西条という小さい町にある。私の新しいアパート、周りの店、そして大学に慣れるのはちょっと時間がかかった。しかし、韓国出身である私は他の留学生に比べて速く慣れられたと思う。日本の食べ物も口に合うし、韓国と似ているところが多かった。一番つらかったことは高校とニュージーランドの大学でずっと日本語を勉強していた私が日本人に話をかけようとしたらよく自信がなくなったものだ。しかし、新しい友達ができてから、だんだん自信ができた。

私のプログラムは研究を目的にするのだったので、私が日本にいる間一番大切なことは自分が好きなテーマを選んで、それについて約6ヶ月間研究して、最後に作文を書き、発表会で発表することだった。もちろん日本語や他の科目の授業もうけることができた。私は日本に来る前にドイツ語とスペイン語も勉強していたので、ドイツ語の授業も週に二回受けた。そのほか大学のクラブ活動や留学生のための活動に参加することができた。広島大学の留学生センターは留学生のためいろいろな旅行の計画を立ててくれた。それにより新しい友達もたくさん作れて日本の文化体験ができた。そんなに10ヶ月があっという間に経った。日本での2回目の秋が始まり頃。。。作文はいつの間にかほぼ書き終わったし、日本での最後の月が近づいていた。日本での一年。思っていたのよりもっと100倍も楽しかった。授業での勉強だけではなく、日本生活、日本人の習慣、そして日本の文化についてたくさん学んで、嬉しい。日本で作った友達、知り合った先生たち、みんなに会いたい。もうニュージーランドについて2年が経った。今は仕事のおかげで日本によく行けるから嬉しい。日本で過ごした一年は本当に短かったけれども、私の人生の最高の経験になった。もっと成長した大人に、私が現在の私である理由は日本の留学のおかげだと言える。

広島のお好み焼き、もみじまんじゅう、西条のきれいな田んぼ懐かしいなあ。。。